

「75 年のストーリーズ Caux のマジック」

1948 年：ポール ミスラキ

「新しいドイツのためのサウンドトラック」

「こんな苦しみは想像できなかった。涙が出た」

ドイツは廃墟でした。ヨーロッパは廃墟と化していました。数百万人が殺され、さらに数百万人が負傷し、家を失いました。心の廃墟、癒しを痛切に必要とする深い集団的トラウマもありました。1948 年の夏にコーでミュージカル『The Good Road』が、巡回写真展と小冊子『Es Muss Alles Anders Werden (何一つ同じものはない)』とともに制作されました。コーに来ていたスウェーデンの製紙会社が、150 万部を印刷するための紙を提供しました。

1948 年 10 月、フランク・ブッフマンと 260 人のチームは、バスでコーからドイツに向かいました。ナチスのフランス占領に対するレジスタンスとして戦ったフランス人女性イレヌ・ローの言葉を借りれば、「畑を耕すように、ドイツ全土を行ったり来たりしました」。これは戦後のドイツにおける最大の非軍事作戦と言われました。

この革新的で挑戦的なプロジェクトに参加した傑出した才能を持つもののひとりが、ポピュラー音楽や映画音楽でフランスを代表する作曲家ポール・ミスラキでした。彼は 60 年以上にわたって、ジャン・ルノワール、クロード・シャブロール、ジャン-リュック・ゴダール、オーソン・ウェルズなどの映画監督のために、130 本もの映画音楽を作曲しました。

コンスタンチノーブルでイタリア人の血を継ぐフランス系ユダヤ人の家庭に生まれた彼は、1930 年代までにジャズ・ピアニスト、編曲家、ポピュラー・ソングの作詞家として確固たる地位を築きました。第二次世界大戦のドイツ占領下にあったフランスを逃れ、ハリウッドに渡りました。コーでミスラキは、のちに劇作家となった英国人の教会牧師アラン・ソーンヒルの作詞による主題歌を含み、劇のために多くの曲を作曲しました。

写真は劇のサウンドトラックを録音するために、ジュネーブのヴィクトリア・ホールでスイス・ロマンド交響楽団（主要なコンサートホールであり、著名なオーケストラである）を指揮するポール・ミスラキ。劇とともに交響楽団を率いてドイツ国内を巡ることは出来ないのです、サウンドトラックの録音は必要なことでした。

ペーター・ピーターセン（1947 年参照）は舞台スタッフのひとりでした。コーラスにフランスから来た 19 歳のジャクリーヌ・コシュリンがいました。彼女は 1940 年に家族とともにアルザスを追われました。両親に宛てた小冊子の中で、彼女は廃墟が続くドイツの中を走るバスから見た様子を次のようにこと細かく描写しています。

「これが私の望んでいたことです。占領下では、ドイツ人にも苦しみを理解してほしかった。このツアーに参加し大学を 1 年間休学したとき、私は敗戦した敵を気遣う自分に誇りを感じていました。でも、こんな苦しみがあるなんて知らなかったし、想像もできなかった。そして私は泣きました」。

チームは 11 週間で、11 あるうちの 10 の州議会を含み 200 回の公開集会と劇を開催しました。チ

ームにはふたりのフランス系ユダヤ人がいて、一人は 15 人、もう一人は 22 人の親族をナチスの強制収容所で亡くしていました。

ロンドン・ニュース・クロニクル紙は「あなた方 (MRA) は、ドイツ国民に民主主義を理解してもらうために、われわれが 3 年間でなし得た以上のことを 2 日間でやってのけた」という軍政府の役人の言葉を記載しました。

アンドリュー・スタリーブラス



Paul Misraki rehearsing for the show



(Left) A travelling photo exhibition is prepared in Caux 1948

(Right) The cast of "The Good Road" meet the audience backstage after a show in Germany 1948